

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 実用新案登録公報 (Y 2) (11) 実用新案登録番号

第2552369号

(45) 発行日 平成9年(1997)10月29日

(24) 登録日 平成9年(1997)7月4日

(51) Int.Cl. ⁸	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 4 3 K 3/00			B 4 3 K 3/00	Z
7/00			7/00	
8/00			8/00	
21/00			21/00	A

請求項の数1(全 3 頁)

(21) 出願番号 実願平3-113194
(22) 出願日 平成3年(1991)12月26日
(65) 公開番号 実開平5-53991
(43) 公開日 平成5年(1993)7月20日

(73) 実用新案権者 000005511
べんてる株式会社
東京都中央区日本橋小網町7番2号
(72) 考案者 丸山 茂樹
埼玉県北葛飾郡吉川町大字川藤125 ベ
んてる株式会社 吉川工場内

審査官 砂川 充

(56) 参考文献 特開 平3-30999 (J P, A)
実開 平2-94189 (J P, U)
実開 昭56-176881 (J P, U)
実開 昭56-176880 (J P, U)

(54) 【考案の名称】 重心位置可変式筆記具

(57) 【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 軸筒と、その軸筒内に筆記体を有する筆記具において、前記軸筒内に錘体を摺動自在に配置すると共に、その錘体を任意の位置に移動固定可能な錘体移動手段を軸筒に回転自在に配置し、その回転駆動手段の全部あるいは一部の外径を前記軸との外径と略同等かあるいは大径としたことを特徴とする重心位置可変式筆記具。

【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本考案は、シャープペンシル、ボールペンなどの筆記体を軸筒内に有する筆記具の重心位置を、筆記者の好みに応じて任意の位置に変更し得るようなした筆記具に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 軸筒と、その軸筒内に筆記体と移動可能な重量体を配置した重心位置可変式筆記具として、本願出願人は、先に実開昭56-176881号を考案した。詳述すると、本体の内部には、一端がその本体の後端より突出している筆記体が内設されており、又、本体と筆記体との間には、突起体を有する重量体が移動自在に配置されている。その突起体は、筆記最中に重量体が移動しないようにするための一時係止手段である。又、前記実開昭56-176881号には、第2実施例として本体内面と重量体とを螺合せしめ、筆記体を回転させることにより重量体を移動させる筆記具を開示した。

【0003】

【考案が解決しようとする課題】 しかしながら、上記従来技術の第1実施例においては、突起体を押圧して重量体を移動しなければならず面倒であり、又、第2実施例

においては、細い筆記体を回転させ重量体を移動させなければならず操作性が悪かった。

【0004】

【課題を解決するための手段】本考案は、上記問題点に鑑みてなされたものであり、軸筒と、その軸筒内に筆記体を有する筆記具において、前記軸筒内に錘体を摺動自在に配置すると共に、その錘体を任意の位置に移動固定可能な錘体移動手段を軸筒に回転自在に配置し、その回転駆動手段の全部あるいは一部の外径を前記軸との外径と略同等かあるいは大径としたことを要旨とするものである。

【0005】

【実施例】一例としてシャープペンシルの実施例を挙げ、以下に詳述する。第1実施例を図1に示し、それに基づいて説明する。軸筒1の先端には、芯保護管2が圧入され、芯戻り止め部材3が内設された先部材4が螺着されている。また、前記軸筒1内には、前端に鉛芯把持用のチャック体5が圧入され、スリット6が形成された芯タンク7が弾撥部材8により後方に付勢され摺動自在に配置されている。参照符号9は、チャック体5の開閉

を行うチャックリングである。

【0006】また、軸筒1の後方には、内面に螺旋溝10が形成されたノックキャップ11を配置させている。そのノックキャップ11内には、スリット12が形成され、前記ノックキャップ11を回転保持すると共に、前記芯タンク7に圧入され、かつ軸筒1に対して摺動可能なコネクター13が配置されている。尚、軸筒1とコネクター13とがお互いに回転しないように、図2に示すよう互いにその断面形状は多角形（本実施例においては、六角形）に形成されている。

【0007】さらに、前記芯タンク7内には、突部14が形成され、その突部14が前記スリット6に摺動自在に挿入されたリング状の錘体15が配置されている。その錘体15には接続管16が後方に向けて延設されており、その接続管16端部には突部17が形成された案内部材18が固定されている。その案内部材18の突部17は前記コネクター13のスリット12に挿入され、さらにノックキャップ11の螺旋溝10と係合している。参照符号19は鉛芯脱落防止用の蓋体であり、コネクター13の後端に圧入されている。

【0008】次に作用について説明する。軸筒1を固定し、ノックキャップ11を回転させると、案内部材18の突部17と螺旋溝10との係合により、案内部材18は螺旋溝10に従って移動する。この案内部材18の移動にともない錘体14が移動する。このようにして錘体14を移動させ、筆記体の重心位置を変化させる。尚、ノックキャップ11を押圧することにより鉛芯を繰り出す作用は、公知の後端ノック式のシャープペンシルの鉛芯繰り出し作用と略同様であるので、その説明を省略する。

【0009】図2は本願考案における第2実施例を示すものである。軸筒1の内面には溝部20が形成されている。また芯タンク7の外周には、螺旋溝21が形成された案内管22が外装されている。その案内管22の後端には、その案内管22を回転させるためのリング部材23が圧入されている。そして前記案内管22には錘体24が螺着されていて、かつ錘体24に形成されている突部25と溝部20とが係合している。参照符号26は、前記芯タンク27の後端に圧入されている押圧部材である。その他の構成は、前記第1実施例と略同様なのでその説明を省略する。

【0010】次に作用について説明する。リング部材23を回転させると、案内管22と錘体24とが螺着し、突部25と溝部20とが係合し錘体24は回転しないため、その錘体24は上・下方向に移動する。

【0011】図5は本願考案における第3実施例を示すものである。軸筒1の内面には、中間部に螺旋溝27が形成され、後端に鏝部28が形成された回転筒体29

（図6参照）が回転自在に取り付けられている。その回転筒体29の内面には、弾性突出部30が形成された錘体31が配置されており、前記弾性突出部30は螺旋溝27と軸筒1に形成されている係止孔32～34（図5の状態においては係止孔32に嵌入）に嵌入している。

【0012】次に作用について説明する。鏝部28を回転させると螺旋溝27に従い錘体31の弾性突出部30は係止孔32の嵌入が解除され、軸筒1の内壁面を滑りながら錘体31が係止孔33へと導かれる。錘体31の弾性突出部30を係止孔に嵌入することにより、確実に錘体31を固定することができ、多少の外力が加わっても錘体は移動しない。

【0013】

【考案の効果】本考案は、軸筒と、その軸筒内に筆記体を有する筆記具において、前記軸筒内に錘体を摺動自在に配置すると共に、その錘体を任意の位置に移動固定可能な錘体移動手段を軸筒に回転自在に配置し、その回転駆動手段の全部あるいは一部の外径を前記軸との外径と略同等かあるいは大径としたので、重心位置を移動させる際、錘体移動の操作性に優れた筆記具を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本願考案の第1実施例を示す半縦断面図である。

【図2】図1に相当するA-A線断面図である。

【図3】図1に相当するB-B線断面図である。

【図4】本願考案の第2実施例を示す半縦断面図である。

【図5】本願考案の第3実施例を示す半縦断面図である。

【図6】図5に相当する回転筒体を示す斜視図である。

【図7】図5に相当する錘体を示す斜視図である。

【符号の説明】

- 1 軸筒
2 芯保護管
3 芯戻り止め部材
4 先部材
5 チャック体
6 スリット
7 芯タンク
8 弾撥部材
9 チャックリング
10 螺旋溝
11 ノックキャップ
12 スリット
13 コネクター
14 突部
15 錘体
16 連接管
17 突部

- * 18 案内部材
19 蓋体
20 溝部
21 螺旋溝
22 案内管
23 リング部材
24 錘体
25 突部
26 押圧部材
10 27 螺旋溝
28 鉤部
29 回転筒体
30 弾性突起体
31 錘体
32 係止孔
33 係止孔
34 係止孔

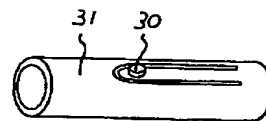
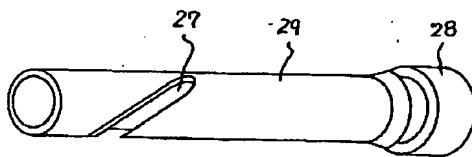
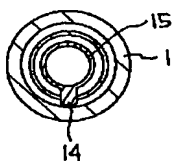
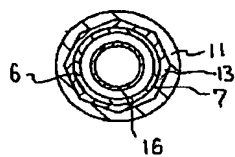
*

【図2】

【図3】

【図6】

【図7】



【図1】

【図4】

【図5】

